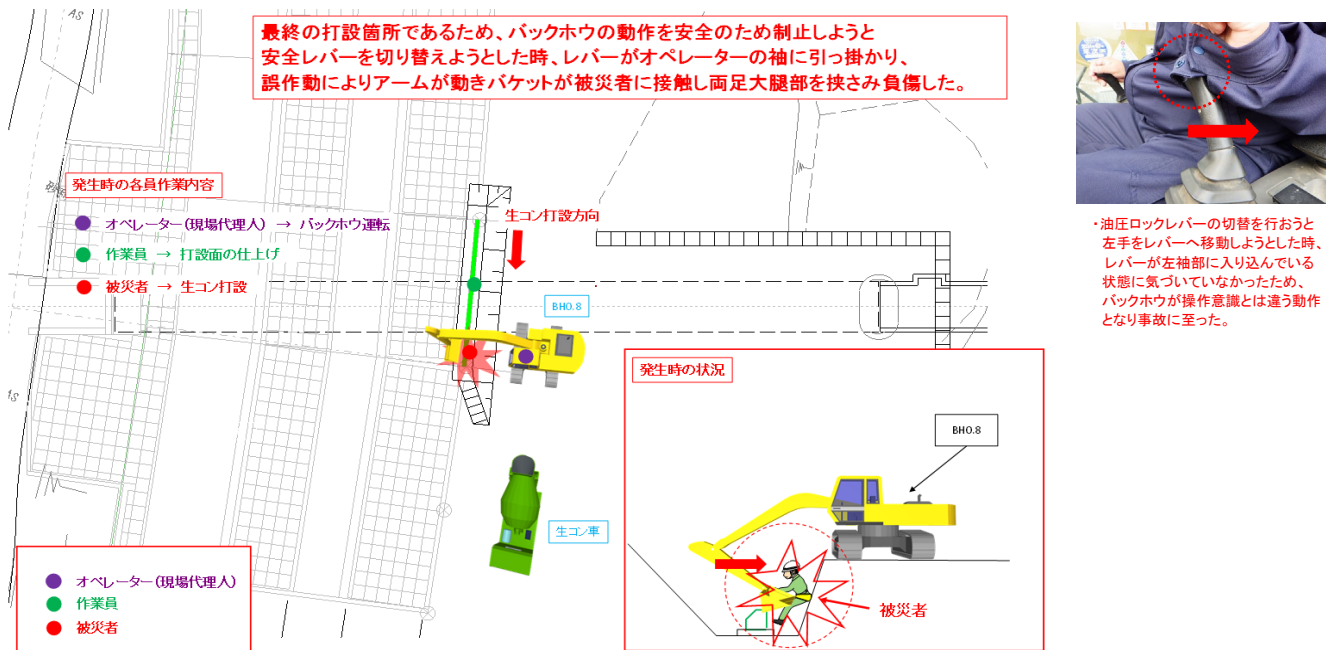


事故種類	労働災害	発生日時	令和6年12月23日 17時15分		事故当事者	2次下請け
事故区分	建設機械	年齢性別	40歳 男性	職種	普通作業員	
被災程度(全治)	右脚大腿部骨折、左脚切断					
事故概要	法覆護岸基礎の中詰めコンクリート打設作業に際し、バックホウの動作を安全のため制止しようと安全レバーを切り替えようとした時、操作レバー(左側)がオペレーターの袖に引っ掛かり、誤作動によりアームが動きバケット先端が被災者に接触し、地山とバケットの間に挟まれ大腿部を負傷した。					
事故原因等	・作業員がバックホウの作業半径内にいる状態で、バックホウを運転させたことにより、被災者がバックホウの誤動作に巻き込まれた。 ・施工計画書では生コン打設作業はコンクリートバケットを使用することとしているが、バックホウのバケットから直接打設作業を実施したことにより、被災者の重傷化を招いた。 ・操作レバーが左袖部に入り込んだことにオペが気づかなかったことにより、バックホウの誤動作を招いた。					
改善策等	・バックホウ運転時は、作業半径内に作業員を配置しない。また、誘導員を配置し、バックホウの誘導及び作業員への注意喚起を実施する。 ・生コン打設時において、施工計画書に記載された施工手順を遵守する。 ・始業時に作業員の服装チェックを実施し、誤動作がおこらないよう注意するとともに、必要に応じてリストバンド等を着用する。					
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・事故原因と対応策について、他工事にも徹底を周知する。					

事故状況図



改善策

重機作業半径立入禁止措置の改善対策

【作業半径内への立入禁止強化】

- ・誘導者の明確な合図(誰でもわかるように)を強化し、誘導者の明確化を徹底する。
- ・誘導者は重機の作業半径内への立入禁止を徹底するため作業員及び重機オペレーターへの合図を徹底する。
- ・作業員には、重機の作業半径内への立入禁止を徹底させる。

作業-2(打設箇所へ旋回)

作業半径外へ退避

バックホウ旋回方向

誘導員はバケットが定着するまで作業員を立入らせない

計 4名体制

- オペレーター
- 作業員 ①
- 作業員 ②
- 誘導員

重機オペレーターの服装点検表(乗車前)

ヘルメットの脱け、変形はないか	良・不
あご紐の損傷、切れはないか	良・不
作業着の前は開いていないか	良・不
作業着の緩れ、ほつれはないか	良・不
作業着両袖の緩み等がある場合はリストバンドで閉じているか	良・不
作業ズボンのベルトの緩みはないか	良・不
作業ズボンの緩れ、ほつれはないか	良・不
安全靴の緩れ、ほつれはないか	良・不

『服装のみだれから操作レバーに接触し誤動作を引き起こす災害防止のため確実に点検してください!』

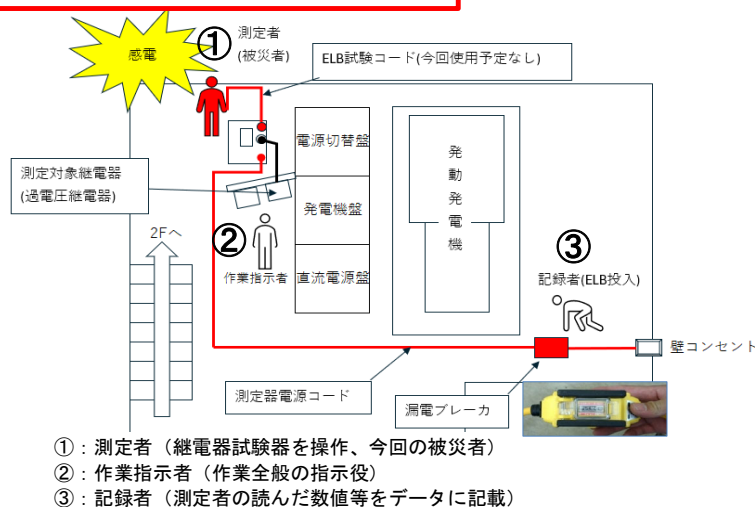
【重機オペレーター服装の徹底】

- ・バックホウオペレーターの服装点検を乗車前に確認し、服装確認を徹底する。(指差呼称の徹底)
- ・服装点検にて袖部の緩み等がある場合は、リストバンドで閉じて緩みを補強する。

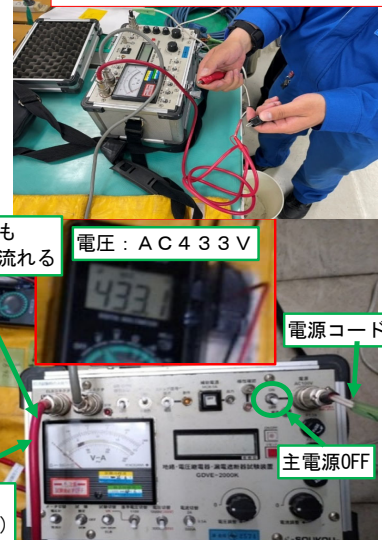
事故種類	労働災害	発生日時	令和7年5月14日 10時00分	事故当事者	2次下請け
事故区分	その他	年齢性別	19歳 男性 職種	点検技術員	
被災程度（全治）	両手人差し指第2関節の火傷（Ⅱ度）				
事故概要	発電機に過電圧が生じた際、保護用ブレーカを作動させるための継電器の点検を測定器を用いて行っていたところ、測定器の主電源スイッチを切った状態でも電気が流れるコード（ELB試験コード）があり、被災者がそのコードに触れ感電し、火傷した。（測定器の電源コードを差していた）				
事故原因等	①測定中に感電するなど全く考えていなかった。（想定外の認識不足） ②測定器の主電源スイッチが切れている状態であっても測定器の電源コードをコンセントに差すと電圧がかかるコードがあるなど、点検で使用する測定器の操作方法や注意事項を把握していなかった。 ③今回の点検では使用しないコード（事故原因）を測定器に接続していた。 ④測定器用電源ブレーカ投入時に、声かけが正しく伝わっていなかった。				
改善策等	①想定外の事故は事前に行うことができないので作業員の危険察知能力（気づき）を高めていくことが重要と考える。そのため、今後、KYTを定期的的に実施することにより危険察知能力を向上させ想定外を減らしていく。 ②KY時に作業責任者が一方的に話すだけでなく、作業分担ごとにチームミーティングを行い、各作業員が発言しやすい場を設け、危険ポイント・対策を挙げさせ意識の向上を図り、また、作業の区切りごとに、KY項目に追加が無いか、危険ポイントは無かったか各チーム全員で確認し、再度内容の復唱を行う。 ③点検前に高電圧を発生させる測定器リストを下請けから元請けに提出することを依頼し、また、測定器の注意事項などについての講習会を元請けが開催するとともに、下請けに対しても開催依頼し、その際には元請も参加し共に安全意識を高める。更には、元請けによる現場パトロールにて講習内容が反映されているか作業員一人一人に確認し、また、作業前ミーティング時には作業責任者が測定器を扱う作業員に対し講習会を受講しているか確認を行う。 ④点検で使用しないコードは不用意に測定器に接続しないようにコード接続箇所にかバーを取り付け注意喚起シールを貼り付ける。 ⑤電源投入時の声かけを行った際は作業員全員が作業を一旦中止し応答することを作業前ミーティング時に周知徹底する。 ⑥現場作業日報記録表、危険予知活動表、新規入場者教育用様式に、測定器の使用方法を把握しているかどうか、電源投入の声かけを行った場合に応答することなどのチェック項目を追記する。				
類似工事（他工事）へ活用できる対策等	①情報共有メール、安全協議会及び安全訓練等で周知を図る。				

記録者③が漏電ブレーカを投入したところ、測定者（被災者）①がELB試験コードに触れ感電し、火傷した。

事故状況図



感電時の状況
（ELB試験コードに触っていた）



改善策



改善策

- 安全に対する意識の向上: KYTを定期的的に実施し、危険察知能力を向上させ想定外を減らしていく。
- KYTの見直し: 作業員からも危険ポイント、安全対策を発言させ、安全意識を高める。
声掛け作業の場合は作業中断、応答することを周知徹底する。
- 測定器使用の教育: 高電圧を発生させる測定器リストを作成し、測定器の講習会を実施する。
- 測定器再発防止対策 (上写真): 接続しない箇所へのキャップ取付、電源コードとELB試験コードを結束し、電源コードをコンセントに差している状況ではELB試験コードが装置本体に接続できないようにする。
- 安全資料様式の改善: 現場作業日報、危険予知活動表、新規入場者教育用様式の改善

事故種類	労働災害	発生日時	令和7年6月16日 15時00分	事故当事者	元請
事故区分	その他	年齢性別	32歳男性 電気工	作業員	
被災程度(全治)	右中指切創・右中指伸筋腱断裂、右環指切創、右示指捻創(全治約1ヶ月の通院治療)				
事故概要	CCTV用発電機点検中に法面でバランスを崩し、ファンベルトに右手中指を挟まれ負傷した。				
事故原因等	・作業員(被災者)が法面(降雨後で滑りやすい状況)でのCCTV用発電機の点検中(発電機の回転数の計測)に足が滑りバランスを崩したことで、転倒を防ぐためにとっさに回転しているファンベルトを掴んでしまい、ファンベルトに右手中指を挟まれ負傷した。 ・通常は回転部への巻き込み防止パネルが設置されているが、回転数を計測する点検のためパネルを外していた。				
改善策等	・法面等、足場が不安定な場所で作業する場合の注意点を履行計画書(作業手順書)に記載し、事故防止を図る。 ・作業場所、作業当日の気象条件等を念頭に置いたKYミーティングを実施し、降雨等により現場条件が変化した時は、作業計画を必要に応じ変更し作業員全員の意識の共有を図る。 ・点検の際、ファンベルトに直接触れることがないよう、点検器具を作成、取り付けけた状態で点検を行う。 ・法面での点検の際には、斜面で安全に作業が可能な機材を準備し点検を行う。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・履行計画書(作業計画書)に対策を明記することで、事故の防止を図る。 ・作業場所、作業当日の気象条件等を念頭に置いたKYミーティングを実施し、作業員全員の意識の共有を図る。 ・法面等、不安定な場所での作業の際には斜面でも安全に作業が可能な機材を準備し点検を行う。				

事故状況図



起動直後

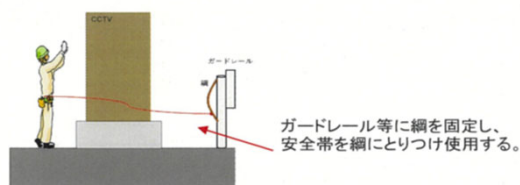


斜面で足が滑り、ファンベルトを掴んでしまったことでベルトに巻き込まれて被災した。

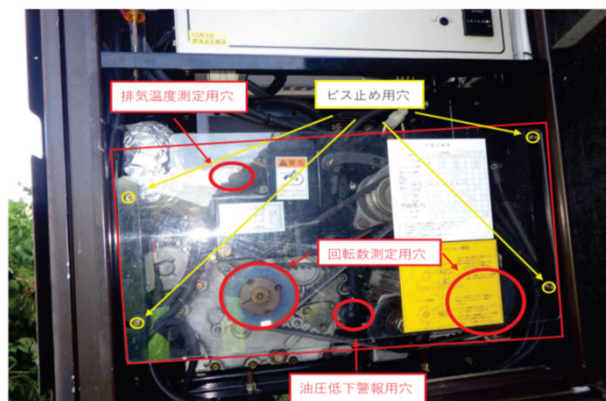
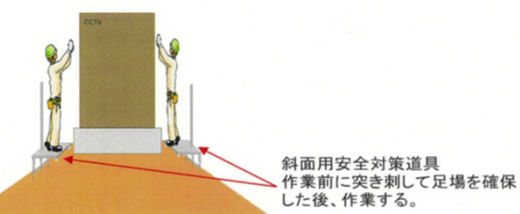
改善策

小容量発電機(CCTV用発電機・情報板用発電機)設置状況に応じた安全対策

1. 高所になる場合



2. 斜面の場合



1 上記のような測定用の穴を開けた点検治具を作成し、発電機を起動させる際は、必ず点検治具若しくは元のアクリルカバーを付けた状態で行う。

2 点検治具を用いた点検を行うことを作業手順書に記載し、作業員全員に周知徹底するよう教育を行う。

機密性2情報					
事故種類	公衆災害	発生日時	令和7年7月16日 16時2分		事故当事者
事故区分	飛来・落下	年齢性別	-	職種	-
被災程度(全治)	一般車両の左側フロントガラスの破損・けが人無し				
事故概要	法面吹付の準備段階において、道路沿いの駐車帯に吹付プラントを設置し、試運転を実施したところ、レシーバータンクの方から「プシュー」と空気がしたため、異常を感じコンプレッサーの運転を停止させようとしたところ、「パン」という音と同時にレシーバータンクからホースが外れるのを確認した。その後直ちにコンプレッサーの運転を停止させ、確認したところ、コンプレッサーからレシーバータンクへ空気を圧送するホースの止め金具(レシーバータンク側)が外れ、国道に飛び、走行中の一般車両に損傷をあたえた。				
事故原因等	・止め金具(インターロックバンド)のボルトがしっかりと締まっていなかった。 ・プラント設置時にホースの止め金具(インターロックバンド)のボルトをしっかりと締めた認識であったため、試運転時にそのチェックを行わなかった。 ・繰り返し使用していたホース内部の摩耗により、ボルトの締付が十分に行われていなかった。				
改善策等	・止め金具(インターロックバンド)の締め付け後にゆりみがないか、目視及び数値で確認できる様、ボルト及びナットに合いマークを付け、ボルトの長さを計測する。 そのチェック項目を作成し、点検者と元請職員によるダブルチェックを行う。 ・止め金具(インターロックバンド)を取り付けていたホースの摩耗している箇所を切断し、摩耗していない新しい箇所を機器に接続する。 また、ホースが抜けそうになっていないか目視及び数値で確認ができるように、止め金具(インターロックバンド)と取り付け金具の間の長さを計測する。 ・ホースの暴れ防止及び止め金具(インターロックバンド)の飛び防止として、ホースをレシーバータンクにワイヤーロープにて連結し、止め金具(インターロックバンド)はホースに繋いだワイヤーロープに番線にて連結する。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・止め金具(インターロックバンド)の締め付け後にゆりみがないか、目視及び数値で確認できる様、ボルト及びナットに合いマークを付ける。 ・ホースの暴れ防止及び止め金具(インターロックバンド)の飛散防止対策として、ワイヤーロープ及び番線にて連結する。				

事故状況図

事故発生箇所

凡例

- 被災車両
- 発電機
- レシーバータンク
- コンプレッサー
- 吹付機
- ベルトコンベア
- 軽量機
- セメントサイロ
- 砂ホッパー
- 作業員
- 担当技術者

ホースが外れた箇所

飛んだ金具

外れたホース内径50mm

改善策

ボルト及びナットに合いマークを付け、ボルトの長さを計測。
そのチェック項目を作成し、点検者と元請職員によるダブルチェックを実施。

摩耗していない新しい箇所を機器に接続。

長さを測る

合いマーク

切断

廃棄

ホースをレシーバータンクにワイヤーロープにて連結し、止め金具(インターロックバンド)はホースに繋いだワイヤーロープに番線にて連結。

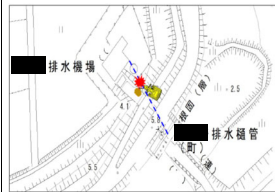
止め金具(インターロックバンド)

止め金具(インターロックバンド)を番線にてホースに繋いだワイヤーロープに連結。

連結に使用するワイヤーロープ

機密性2情報					
事故種類	公衆災害	発生日時	令和7年8月20日18時00分	事故当事者	1次下請け
事故区分	切断	年齢性別	48歳 男性	職種	バックホウ運転手
被災程度(全治)	被災者なし				
事故概要	除草工事において、バックホウによる集草作業中に架空線に接触した。当該架空線は自治体管理の排水機場と樋管の間の水位計通信ケーブルで、ケーブルを支えるラッシングロッドを破損した。また、通信ケーブルの被膜を損傷した。				
事故原因等	・作業終了時間を過ぎていたため早く終わらせることに気を取られ、架空線に対する意識が薄れていた。 ・監視員がいない状態で一人で作業した。 ・作業の支障となるため「架空線注意」のぼり旗を一時的に撤去していた。 ・元請・下請間でその日の作業完了を確認したにもかかわらず、下請の判断で集草作業を継続した。 ・集草作業におけるバックホウ使用を施工計画書に記載していなかった。				
改善策等	・当日作業範囲内に架空線や支障物がある場合は、朝礼で具体的に周知し作業員全員がKY活動にて確認する。重機オペレータは作業場所内で架空線や支障物の有無を再度目視にて確認する。 ・架空線の下でバックホウで作業する場合は、範囲内の架空線や支障物付近に注意喚起のぼり旗の明示及び三角旗、カラーコーン、ポール、保護カバーを設置し、定期的に設置状況を確認する。 ・作業は二人以上で行う。また、架空線や支障物がある場所では、更に監視員を指名配置する。 ・注意喚起のぼり旗が作業の支障となる場合は、支障なく見える範囲へ配置し直す。 ・作業に変更が生じる場合は、元請への指示を仰ぐことを徹底する。 ・作業方法を変更する場合は、監督職員に変更施工計画書を提出し、確認を受けた上で作業を行う。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・作業範囲内に架空線・支障物がある場合は、作業員全員がKY活動にて確認する。重機オペレータは作業場所内で架空線や支障物の有無を再度目視にて確認する。 ・架空線の下でバックホウで作業する場合は、のぼり旗による明示及び三角旗等を設置し定期的に設置状況を確認する。 ・注意喚起のぼり旗が作業の支障となる場合は、支障なく見える範囲へ配置し直す。 ・作業に変更が生じる場合は、元請の指示を仰ぐ。				

事故状況図



(断面図)

集草作業中、バックホウ(クローフォーク装着)が旋回時に通信ケーブルに接触

集草作業中バックホウ0.18m3 (クローフォーク装着)が旋回時に通信ケーブルに接触!

通信ケーブル

排水樋管

排水機場

集草

高さH=5.1m

ラッシングロッドの破損状況

通信ケーブルの被膜損傷状況

改善策

【施工計画書への追記(赤字部分)】

30) 接触防止対策

- ・当類工事において使用するダンプトラックは警告の上昇を知らせる警報装置の作動状況が正常であることを確認の上、使用する。
- ・警報装置の不良及び下装備車については、入場を禁止させる。
(協力会社への周知徹底)
- ・ダンプトラック使用時には、ダンプアップ状態で移動・走行しないよう重機運転手およびダンプトラック運転手に確認させる。
- ・架空線については、「架空線注意」の看板または注意喚起の印(旗・カラーコーン)を設置し、鮮明色の「三角旗」を取付け架空線の切断及び上空施設との接触を防止します。
- ・高さ制限ゲートを現場の入口に設置し、注意喚起を行う。
- ・架空線下で集草作業を行う場合は架空線が死角になることを防ぐためバックホウのOPが目視確認出来る範囲で移動して作業を行う。
- ・当日作業範囲に、架空線がある場合は朝礼で具体的に周知し作業員全員がKYにて確認する。
- ・架空線近傍作業時には、監視員を指名し配置する。
- ・架空線近傍、直下作業が予定している場合は作業開始前に現場管理責任者確認後作業を開始する。
- ・元請が指名した監視員は監視のみに専念する。

【是正完了状況】



架空線注意設置完了

事故種類	労働災害	発生日時	令和7年9月8日 11時00分	事故当事者	2次下請け
事故区分	墜落・転落	年齢性別	25歳 男性	職種	普通作業員
被災程度（全治）	右大腿部圧迫粉碎開放骨折				
事故概要	・カルバート工施工段取りで、過年度既往工事（1期）施工の頂版部を利用して、カルバート躯体を緊張する際、使用する資機材の油圧ホースを展開していた際に、足元確認の不足で、カルバート基礎部へ転落した。				
事故原因等	①カルバート工据付作業（準備含む）施工ヤードとして考えていた既設ボックスの頂版部は、安全施設として親綱設置施していたが、安全施設として親綱を設置していたが、使用予定になかった既設のボックスの残りの頂版部については、安全施設の設置を行っていなかったため、転落事故につながってしまった。 ②施工担当者（1次下請・主任技術者）と元請により当日計画された作業内容を事前打合せ行っていたが、作業が早く終わった事より、事前打合せにない次作業を内容確認せず行い、転落事故となった。				
改善策等	①使用予定としない作業スペースについては、完全に侵入出来ない措置、状態とすることが、類似する事故を防ぐ効果的な対策とし、300型山留鋼を基礎とする単管パイプを用いた安全柵の設置をした。（柵横軸の単管パイプ間はオレンジネット張で完全に進入出来ないような構造とした） ②各作業に関する元請からの安全指示、作業指示事項を確実に伝達するため、当日作業の変更や予定にない作業を行う場合の現場ルールとして、既存のKY活動表の様式を一部編集し活用した。また、現場代理人及び監理技術者への報告許可を受けた後、作業開始するよう徹底し、予定にない作業が発覚した場合、即時作業中止のうえ、打合せ行い作業再開とした。				
類似工事（他工事）へ活用できる対策等	・建設現場全般、作業範囲を超えた作業が出来ないような措置、危険区域への進入防止柵（安全柵）の設置の徹底。 ・下請け（1次・2次下請共）の現場内の共通認識を高める教育の実施。（意識向上）				

事故状況図

事故発生場所

過年度既往工事（1期）施工区間

本工事（2期）施工区間

作業員A

作業員B

作業員C

作業員D

作業員E

作業員F

作業員G

作業員H

作業員I

作業員J

作業員K

作業員L

作業員M

作業員N

作業員O

作業員P

作業員Q

作業員R

作業員S

作業員T

作業員U

作業員V

作業員W

作業員X

作業員Y

作業員Z

作業員AA

作業員AB

作業員AC

作業員AD

作業員AE

作業員AF

作業員AG

作業員AH

作業員AI

作業員AJ

作業員AK

作業員AL

作業員AM

作業員AN

作業員AO

作業員AP

作業員AQ

作業員AR

作業員AS

作業員AT

作業員AU

作業員AV

作業員AW

作業員AX

作業員AY

作業員AZ

作業員BA

作業員BB

作業員BC

作業員BD

作業員BE

作業員BF

作業員BG

作業員BH

作業員BI

作業員BJ

作業員BK

作業員BL

作業員BM

作業員BN

作業員BO

作業員BP

作業員BQ

作業員BR

作業員BS

作業員BT

作業員BU

作業員BV

作業員BW

作業員BX

作業員BY

作業員BZ

作業員CA

作業員CB

作業員CC

作業員CD

作業員CE

作業員CF

作業員CG

作業員CH

作業員CI

作業員CJ

作業員CK

作業員CL

作業員CM

作業員CN

作業員CO

作業員CP

作業員CQ

作業員CR

作業員CS

作業員CT

作業員CU

作業員CV

作業員CW

作業員CX

作業員CY

作業員CZ

作業員DA

作業員DB

作業員DC

作業員DD

作業員DE

作業員DF

作業員DG

作業員DH

作業員DI

作業員DJ

作業員DK

作業員DL

作業員DM

作業員DN

作業員DO

作業員DP

作業員DQ

作業員DR

作業員DS

作業員DT

作業員DU

作業員DV

作業員DW

作業員DX

作業員DY

作業員DZ

作業員EA

作業員EB

作業員EC

作業員ED

作業員EE

作業員EF

作業員EG

作業員EH

作業員EI

作業員EJ

作業員EK

作業員EL

作業員EM

作業員EN

作業員EO

作業員EP

作業員EQ

作業員ER

作業員ES

作業員ET

作業員EU

作業員EV

作業員EW

作業員EX

作業員EY

作業員EZ

作業員FA

作業員FB

作業員FC

作業員FD

作業員FE

作業員FF

作業員FG

作業員FH

作業員FI

作業員FJ

作業員FK

作業員FL

作業員FM

作業員FN

作業員FO

作業員FP

作業員FQ

作業員FR

作業員FS

作業員FT

作業員FU

作業員FV

作業員FW

作業員FX

作業員FY

作業員FZ

作業員GA

作業員GB

作業員GC

作業員GD

作業員GE

作業員GF

作業員GG

作業員GH

作業員GI

作業員GJ

作業員GK

作業員GL

作業員GM

作業員GN

作業員GO

作業員GP

作業員GQ

作業員GR

作業員GS

作業員GT

作業員GU

作業員GV

作業員GW

作業員GX

作業員GY

作業員GZ

作業員HA

作業員HB

作業員HC

作業員HD

作業員HE

作業員HF

作業員HG

作業員HH

作業員HI

作業員HJ

作業員HK

作業員HL

作業員HM

作業員HN

作業員HO

作業員HP

作業員HQ

作業員HR

作業員HS

作業員HT

作業員HU

作業員HV

作業員HW

作業員HX

作業員HY

作業員HZ

作業員IA

作業員IB

作業員IC

作業員ID

作業員IE

作業員IF

作業員IG

作業員IH

作業員II

作業員IJ

作業員IK

作業員IL

作業員IM

作業員IN

作業員IO

作業員IP

作業員IQ

作業員IR

作業員IS

作業員IT

作業員IU

作業員IV

作業員IW

作業員IX

作業員IY

作業員IZ

作業員JA

作業員JB

作業員JC

作業員JD

作業員JE

作業員JF

作業員JG

作業員JH

作業員JI

作業員JJ

作業員JK

作業員JL

作業員JM

作業員JN

作業員JO

作業員JP

作業員JQ

作業員JR

作業員JS

作業員JT

作業員JU

作業員JV

作業員JW

作業員JX

作業員JY

作業員JZ

作業員KA

作業員KB

作業員KC

作業員KD

作業員KE

作業員KF

作業員KG

作業員KH

作業員KI

作業員KJ

作業員KK

作業員KL

作業員KM

作業員KN

作業員KO

作業員KP

作業員KQ

作業員KR

作業員KS

作業員KT

作業員KU

作業員KV

作業員KW

作業員KX

作業員KY

作業員KZ

作業員LA

作業員LB

作業員LC

作業員LD

作業員LE

作業員LF

作業員LG

作業員LH

作業員LI

作業員LJ

作業員LK

作業員LL

作業員LM

作業員LN

作業員LO

作業員LP

作業員LQ

作業員LR

作業員LS

作業員LT

作業員LU

作業員LV

作業員LW

作業員LX

作業員LY

作業員LZ

作業員MA

作業員MB

作業員MC

作業員MD

作業員ME

作業員MF

作業員MG

作業員MH

作業員MI

作業員MJ

作業員MK

作業員ML

作業員MM

作業員MN

作業員MO

作業員MP

作業員MQ

作業員MR

作業員MS

作業員MT

作業員MU

作業員MV

作業員MW

作業員MX

作業員MY

作業員MZ

作業員NA

作業員NB

作業員NC

作業員ND

作業員NE

作業員NF

作業員NG

作業員NH

作業員NI

作業員NJ

作業員NK

作業員NL

作業員NM

作業員NN

作業員NO

作業員NP

作業員NQ

作業員NR

作業員NS

作業員NT

作業員NU

作業員NV

作業員NW

作業員NX

作業員NY

作業員NZ

作業員OA

作業員OB

作業員OC

作業員OD

作業員OE

作業員OF

作業員OG

作業員OH

作業員OI

作業員OJ

作業員OK

作業員OL

作業員OM

作業員ON

作業員OO

作業員OP

作業員OQ

作業員OR

作業員OS

作業員OT

作業員OU

作業員OV

作業員OW

作業員OX

作業員OY

作業員OZ

作業員PA

作業員PB

作業員PC

作業員PD

作業員PE

作業員PF

作業員PG

作業員PH

作業員PI

作業員PJ

作業員PK

作業員PL

作業員PM

作業員PN

作業員PO

作業員PP

作業員PQ

作業員PR

作業員PS

作業員PT

作業員PU

作業員PV

作業員PW

作業員PX

作業員PY

作業員PZ

作業員QA

作業員QB

作業員QC

作業員QD

作業員QE

作業員QF

作業員QG

作業員QH

作業員QI

作業員QJ

作業員QK

作業員QL

作業員QM

作業員QN

作業員QO

作業員QP

作業員QQ

作業員QR

作業員QS

作業員QT

作業員QU

作業員QV

作業員QW

作業員QX

作業員QY

作業員QZ

作業員RA

作業員RB

作業員RC

作業員RD

作業員RE

作業員RF

作業員RG

作業員RH

作業員RI

作業員RJ

作業員RK

作業員RL

作業員RM

作業員RN

作業員RO

作業員RP

作業員RQ

作業員RR

作業員RS

作業員RT

作業員RU

作業員RV

作業員RW

作業員RX

作業員RY

作業員RZ

作業員SA

作業員SB

作業員SC

作業員SD

作業員SE

作業員SF

作業員SG

作業員SH

作業員SI

作業員SJ

作業員SK

作業員SL

作業員SM

作業員SN

作業員SO

作業員SP

作業員SQ

作業員SR

作業員SS

作業員ST

作業員SU

作業員SV

作業員SW

作業員SX

作業員SY

作業員SZ

作業員TA

作業員TB

作業員TC

作業員TD

作業員TE

作業員TF

作業員TG

作業員TH

作業員TI

作業員TJ

作業員TK

作業員TL

作業員TM

作業員TN

作業員TO

作業員TP

作業員TQ

作業員TR

作業員TS

作業員TT

作業員TU

作業員TV

作業員TW

作業員TX

作業員TY

作業員TZ

作業員UA

作業員UB

作業員UC

作業員UD

作業員UE

作業員UF

作業員UG

作業員UH

作業員UI

作業員UJ

作業員UK

作業員UL

作業員UM

作業員UN

作業員UO

作業員UP

作業員UQ

作業員UR

作業員US

作業員UT

作業員UU

作業員UV

作業員UW

作業員UX

作業員UY

作業員UZ

作業員VA

作業員VB

作業員VC

作業員VD

作業員VE

作業員VF

作業員VG

作業員VH

作業員VI

作業員VJ

作業員VK

作業員VL

作業員VM

作業員VN

作業員VO

作業員VP

作業員VQ

作業員VR

作業員VS

作業員VT

作業員VU

作業員VV

作業員VW

作業員VX

作業員VY

作業員VZ

作業員WA

作業員WB

作業員WC

作業員WD

作業員WE

作業員WF

作業員WG

作業員WH

作業員WI

作業員WJ

作業員WK

作業員WL

作業員WM

作業員WN

作業員WO

作業員WP

作業員WQ

作業員WR

作業員WS

作業員WT

作業員WU

作業員WV

作業員WW

作業員WX

作業員WY

作業員WZ

作業員XA

作業員XB

作業員XC

作業員XD

作業員XE

作業員XF

作業員XG

作業員XH

作業員XI

作業員XJ

作業員XK

作業員XL

作業員XM

作業員XN

作業員XO

作業員XP

作業員XQ

作業員XR

作業員XS

作業員XT

作業員XU

作業員XV

作業員XW

作業員XX

作業員XY

作業員XZ

作業員YA

作業員YB

作業員YC

作業員YD

作業員YE

作業員YF

作業員YG

作業員YH

作業員YI

作業員YJ

作業員YK

作業員YL

作業員YM

作業員YN

作業員YO

作業員YP

作業員YQ

作業員YR

作業員YS

作業員YT

作業員YU

作業員YV

作業員YW

作業員YX

作業員YY

作業員YZ

作業員ZA

作業員ZB

作業員ZC

作業員ZD

作業員ZE

作業員ZF

作業員ZG

作業員ZH

作業員ZI

作業員ZJ

作業員ZK

作業員ZL

作業員ZM

作業員ZN

作業員ZO

作業員ZP

作業員ZQ

作業員ZR

作業員ZS

作業員ZT

作業員ZU

作業員ZV

作業員ZW

作業員ZX

作業員ZY

作業員ZZ

改善策

10cm開ける
安全帯掛け箇所

単管パイプ
H=1.5mを2.5mピッチで設置

柵内側にオレンジネット
W=1.0m設置

横柵単管パイプ 3段設置
40cm・40cm・30cm

対策①

安全柵構造及び設置イメージ

事故現場確認

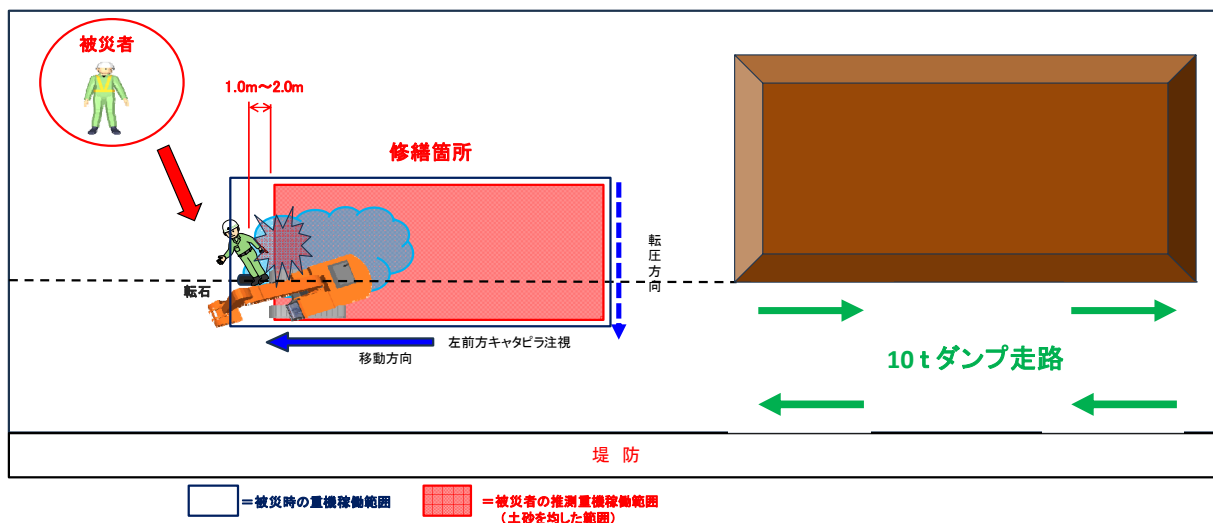
対策②：範囲を超えた作業を行わないよう仮囲い安全柵の設置を行う。
対策③：各作業に関する元請受けからの安全指示及び作業指示事項を確実に伝達するため、作業内容の変更や予定にない作業を行う場合の現場ルールとしてKY活動表等管理様式の一部変更（更新）を行い、報告の徹底を図る。なお、予定にない作業が発覚した場合、即時作業中止行い、打合せ確認後の再開とする。さらに、改善策を新規入場者資料に追記し、周知徹底を図る。

対策②

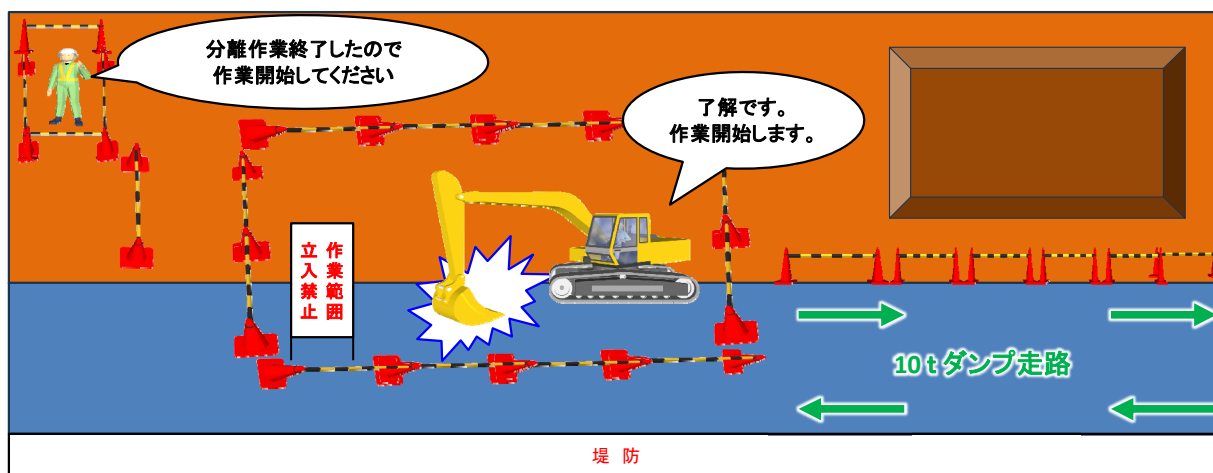
氏名	必要資格	どこにどんな危険があるか	評価	対応方法	評価	コメント
田中 一郎	作業員	足元確認不足	低	足元確認を徹底する	高	
佐藤 太郎	作業員	安全柵の設置	中	安全柵の設置を徹底する	高	
鈴木 三郎	作業員	油圧ホースの展開	低	油圧ホースの展開を徹底する	高	
高橋 四郎	作業員	安全帯の着用	中	安全帯の着用を徹底する	高	
山本 五郎	作業員	安全柵の設置	低	安全柵の設置を徹底する	高	
田村 六郎	作業員	油圧ホースの展開	中	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 七郎	作業員	安全帯の着用	低	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 八郎	作業員	安全柵の設置	中	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 九郎	作業員	油圧ホースの展開	低	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 十郎	作業員	安全帯の着用	中	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 十一郎	作業員	安全柵の設置	低	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 十二郎	作業員	油圧ホースの展開	中	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 十三郎	作業員	安全帯の着用	低	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 十四郎	作業員	安全柵の設置	中	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 十五郎	作業員	油圧ホースの展開	低	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 十六郎	作業員	安全帯の着用	中	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 十七郎	作業員	安全柵の設置	低	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 十八郎	作業員	油圧ホースの展開	中	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 十九郎	作業員	安全帯の着用	低	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	中	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	低	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用	中	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	低	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	中	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用	低	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	中	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	低	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用	中	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	低	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	中	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用	低	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	中	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	低	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用	中	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	低	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	中	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用	低	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	中	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	低	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用	中	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	低	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	中	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用	低	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	中	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	低	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用	中	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	低	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	中	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用	低	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	中	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	低	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用	中	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	低	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	中	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用	低	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	中	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	低	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用	中	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	低	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	中	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用	低	安全帯の着用を徹底する	高	
渡辺 二十郎	作業員	安全柵の設置	中	安全柵の設置を徹底する	高	
山崎 二十郎	作業員	油圧ホースの展開	低	油圧ホースの展開を徹底する	高	
佐々木 二十郎	作業員	安全帯の着用				

事故種類	労働災害	発生日時	令和7年9月19日10時20分	事故当事者	元請
事故区分	建設機械	年齢性別	54歳 女性	職種	
被災程度(全治)	11/1頃退院予定				
事故概要	・土捨て場において、被災者がダンプ走行の妨げになる石を拾っていたところ、 整地作業中のバックホウに接近され、足を踏まれた。				
事故原因等	・安全巡視員は監視しないといけないところを石を拾う作業を行った。 ・オペレーターの確認不足。 ・合図確認の意思共有がされていない。 ・カラーコーン等で出入禁止措置がされていない。				
改善策等	・作業時は作業範囲の明示をし分離作業を行う。 ・合図確認と徹底 ・周囲の確認の徹底 ・特定小電力トランシーバーの使用 ・朝礼時や始業前KY活動時は形式的なものにせずより深い危険の洗い出しを行う。 ・重機設備の向上 ・オペレーター視認位置にカラーコーン等で隔離エリアを設ける。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・事故原因と対応策について、他工事にも徹底を周知する。				

事故状況図

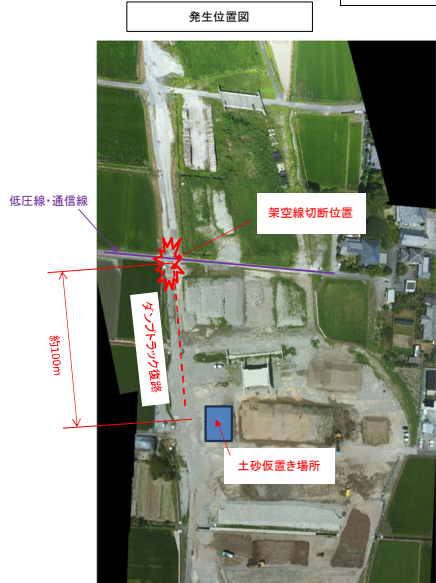


改善策



機密性2情報					
事故種類	公衆災害	発生日時	令和7年9月24日 8時50分		事故当事者
事故区分	切断	年齢性別	64歳 男性	職種	運転手（一般）
被災程度(全治)					
事故概要	・土砂仮置き場にて発生土砂を仮置きした後、荷台をダンプアップしたまま発進・走行した事により、荷降ろし場から約100m離れた位置に横断している市道沿いの架空線(電力低圧線、ネット回線)を切断した。 ・このことにより電力低圧線)で1戸の停電及びネット回線で1戸の不通となった。				
事故原因等	・ダンプの荷台が降りた事を、直接目視で確認していない。 ・電線への注意喚起用の看板等の不備。 ・当該業者が自主的に設置している、追加警告装置(回転灯)が機能していなかった。				
改善策等	・荷下ろし作業のルールを「土砂仮置き場等で荷下ろし直後、その場で荷台を降ろしサイドミラーで荷台が降りた事を目視確認した後走行を開始する事」とし、今後の新規入場者教育で周知徹底を図る。 ・荷下ろし場付近の運行経路上に高さ制限を設置する。 ・荷下ろし場付近に【荷台格納確認】の看板を設置し、荷台降ろしへの意識を再確認させる。 ・回転灯の点検項目を追加する				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・安全協議会等において、事故原因及び改善策を周知。				

事故状況図



改善策

高さ制限装置の設置

【荷台格納確認】の看板を設置

点検表に点検項目を追加

⑧	ダンプ荷台上げ時のブザーの確認	
	ダンプ荷台上げ時の回転灯点灯確認	
	車検証・保険証・定期点検整備記録簿・非常信号用具の備付	

事故種類	労働災害	発生日時	令和7年9月26日 14時15分	事故当事者	2次下請け
事故区分	飛来・落下	年齢性別	35歳 男性	職種	作業員
被災程度(全治)					
事故概要	・ダム洪水吐きに設置してあるスクリーン箇所において、塵芥撤去作業を実施していた。 ・塵芥撤去完了後に施設に付属するワイヤーロープの網を再設置していたところ固定位置が破損していたため、据付直すためにワイヤーロープ網を再度揚重した際に吊り上げ用治具からワイヤーロープ網が外れ落下し、下方の作業員に衝突し被災した。				
事故原因等	・合図者と作業員2名による申し合わせと合図応答は行っているものの、吊り上げ前のワイヤー端部の確認が不十分であった。				
改善策等	・ワイヤー端部の確実な確認を行うため、ワイヤー端部に目印(赤布)を付け、ワイヤーロープが網内に収められ、固定されていることを確認する。 ・改善策については、施工計画書及び施工手順書に明示し作業員へ周知すると共に、施工時には「ワイヤー先端チェックシート」を用いた確実な確認を行う。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・事故原因と対応策について、他工事にも徹底を周知する。				

事故状況図

ワイヤー端部が固定されておりワイヤーモックに張力がかかった

据付直しのために引き上げた際に治具からワイヤーモックが外れ作業員に接触した。

クレーン設置位置

事故発生箇所 下段スクリーン

改善策

吊り手4本及び吊り下げワイヤー3箇所に赤旗による目印

【対策前】

固定用ワイヤーの格納が不十分であった

【対策後】

ワイヤー端部に目印を付け、ワイヤーロープが網内に収められ固定されていることを確認

チェックシートを活用し赤旗がワイヤーモック内に入って結束してあるか確認

ワイヤー先端 チェックシート

ワイヤーモック番号	ワイヤーモック	モックの入り口
1	あり	あり
2	あり	あり
3	あり	あり
4	あり	あり
5	あり	あり
6	あり	あり
7	あり	あり
8	あり	あり
9	あり	あり
10	あり	あり
11	あり	あり
12	あり	あり
13	あり	あり
14	あり	あり
15	あり	あり
16	あり	あり
17	あり	あり
18	あり	あり
19	あり	あり
20	あり	あり
21	あり	あり
22	あり	あり
23	あり	あり
24	あり	あり
25	あり	あり
26	あり	あり
27	あり	あり
28	あり	あり
29	あり	あり
30	あり	あり
31	あり	あり
32	あり	あり
33	あり	あり
34	あり	あり
35	あり	あり
36	あり	あり
37	あり	あり
38	あり	あり
39	あり	あり
40	あり	あり
41	あり	あり
42	あり	あり
43	あり	あり
44	あり	あり
45	あり	あり
46	あり	あり
47	あり	あり
48	あり	あり
49	あり	あり
50	あり	あり
51	あり	あり
52	あり	あり
53	あり	あり
54	あり	あり
55	あり	あり
56	あり	あり
57	あり	あり
58	あり	あり
59	あり	あり
60	あり	あり
61	あり	あり
62	あり	あり
63	あり	あり
64	あり	あり
65	あり	あり
66	あり	あり
67	あり	あり
68	あり	あり
69	あり	あり
70	あり	あり
71	あり	あり
72	あり	あり
73	あり	あり
74	あり	あり
75	あり	あり
76	あり	あり
77	あり	あり
78	あり	あり
79	あり	あり
80	あり	あり
81	あり	あり
82	あり	あり
83	あり	あり
84	あり	あり
85	あり	あり
86	あり	あり
87	あり	あり
88	あり	あり
89	あり	あり
90	あり	あり
91	あり	あり
92	あり	あり
93	あり	あり
94	あり	あり
95	あり	あり
96	あり	あり
97	あり	あり
98	あり	あり
99	あり	あり
100	あり	あり

赤旗はワイヤーモック内に入って結束してあるか？ (各番号の欄を確認し)

ワイヤーモックの入り口

ワイヤーモック

設置前準備はよいのか？

(準備完了なら)

機密性2情報					
事故種類	公衆災害	発生日時	令和7年10月23日 13時43分		事故当事者
事故区分	切断	年齢性別	-	職種	一次下請け
被災程度（全治）	農業用の給水栓破損				
事故概要	事業用地内（用地取得済）の工事用道路横の草が繁茂し、隣接する畑へ害虫被害等が懸念されたため、地域社会への貢献として除草作業を行っていた。乗用草刈機で除草中、草の中の農業用の給水栓（個人所有・今後、国工事にて移設予定）に気づかず、破損・漏水させた。漏水を止めるため、近隣の止水弁を締めた結果、約2時間、22箇所の給水栓から水が出ない状態となった。ただし現地踏査の結果、その時間帯においては水利用がなかったため、田畑への影響はなかった。				
事故原因等	①本体工事以外の創意工夫による除草作業にあたり、作業着手前に給水栓位置を調査し把握していたが、本体工事に意識が集中し、給水栓の存在を失念していた。 ②除草作業前に作業員へ給水栓について注意喚起を行わなかった。 ③給水栓位置に目立つ目印を設置していなかった。				
改善策等	①本体工事以外においても作業する範囲については、支障物等の調査結果をマップにして休憩所横の安全掲示板に分かりやすく掲示する。 ②作業前には必ずマップを確認し、作業員へ注意喚起する。 ③給水栓位置に目立つ目印（草木が繁茂しても分かる登り旗やポールなど）を設置する。				
類似工事（他工事）へ活用できる対策等	①本体工事以外においても作業する範囲については、支障物等の調査結果をマップにして休憩所横の安全掲示板に分かりやすく掲示する。 ②作業前には必ずマップを確認し、作業員へ注意喚起する。 ③給水栓位置に目立つ目印（草木が繁茂しても分かる登り旗やポールなど）を設置する。				



改善策

①現場周辺支障物マップの作成



②マップの掲示と作業前の注意喚起 (現場事務所横・現場作業員休憩所横)

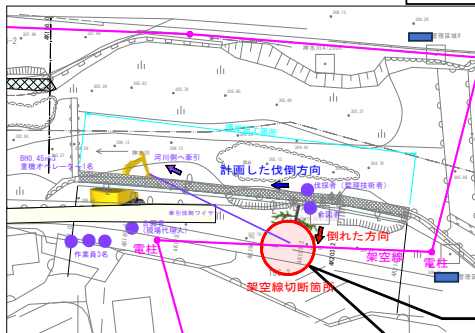


③目立つ目印の設置 (草木が繁茂しても分かる登り旗やポールなど)

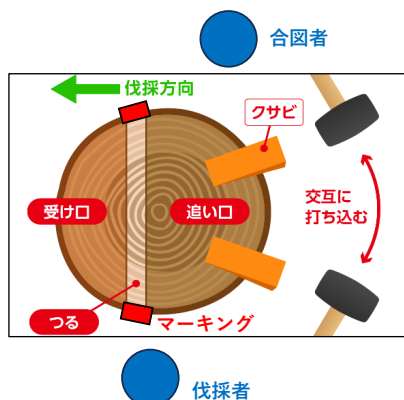
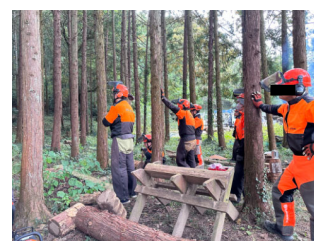


機密性2情報					
事故種類	公衆災害	発生日時	令和7年11月7日 14時40分	事故当事者	元請
事故区分	架空線切断	年齢性別	—	職種	—
事故概要	護岸補修工事の施工範囲内に支障木（杉、H=20.0m）が6本あり、その支障木を伐倒する作業を行っていた。1、2本目を計画の伐倒方向へ倒し、3本目を伐倒した際、計画の伐倒方向ではなく近接する架空線の方（90度方向の電線）へ倒してしまい接触・断線した。九電線（高圧線6000V）切断の影響で、近隣住宅等の7戸で停電が発生した。 ・一般家屋 5戸 ・事務所 1戸 ・会社事務所兼住居 1戸				
事故原因等	この事故の原因は、伐採者・合図者の合図の取決め、伝達方法が確立されていなかったため意思疎通が十分に図れていなかった。 それにより、伐採者に対する合図が不十分となり、所定の切り残しに対して切り過ぎたため伐倒予定方向と違う（90度方向の電線）方向にねじれながら倒木し電線を断線させた。				
改善対策等	現場作業を再開する前に、外部講師による講習（リハーサル）を行い伐木作業時の合図方法、伐倒計画の立案方法、作業手順を習い、再度作業従事者に教育を行う。 作業当日は作業計画書に当日の作業方法を詳細に記載して周知徹底する。 切断開始前に各立木の状態（幹径、枝葉、立木の向き）を確認し伐倒計画を決める。 つるの幅を直径の1/10程度確保出来るようにスプレーでマーキングを行い伐採者と合図者（伐採者の反対側）がつる幅と牽引伐倒ワイヤーの張りを段階的に確認しながら徐々に切断する。 河川対岸よりBHによる牽引ではなく、ワイヤーの張り具合がより確認できる巻き込み式のチルホールにて引張りながら伐倒を行う。また、クサビを2方向（ハの字）に打込み伐倒方向への補助を行う。 作業を行う前に伐採者・合図者で合図の取決めをし、手旗を使用して明確な合図を行う。 架空線保護カバーの設置及び架空線明示（のぼり旗・看板）を行い、作業従事者へ周知徹底を行う。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	伐倒作業時の合図をわかりやすくする。				

事故状況図



改善策

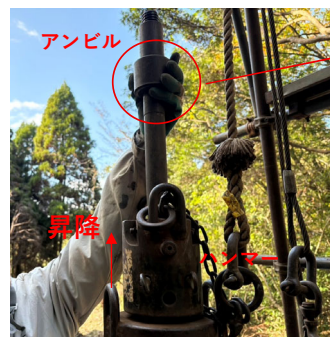
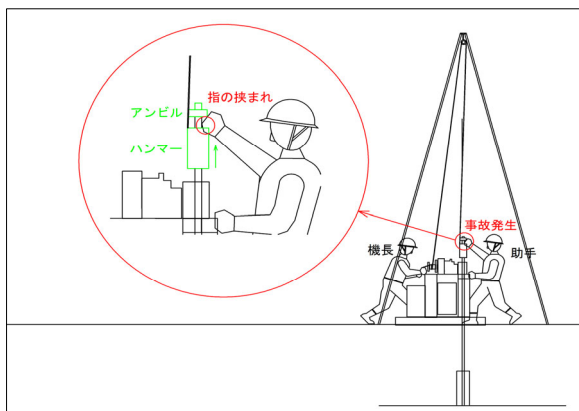


手旗での合図伝達



事故種類	労働災害	発生日時	令和7年11月26日 14時50分	事故当事者	1次下請け
事故区分	工具等取扱	年齢性別	32歳 男性	職種	ボーリング作業員
被災程度(全治)	右環指末節骨開放骨折、右小指中節骨開放骨折、右小指壊死				
事故概要	ボーリング調査におけるロッド引き上げ作業時に、ボーリングマシンの油圧装置により、ロッドの引き上げを行ったところ、上昇しなかったため、標準貫入試験用のハンマーをアンビル(ノッキングヘッド)に打撃し引き上げる逆打ち工法を実施した。逆打ち工法実施中、ハンマーの打撃によりアンビルとボーリングロッドとの接合部が緩まったため、ボーリング助手が締め直しを行ったところ、アンビル部に指がかかっている状態でハンマーが昇降し、アンビルとハンマーとの間で右薬指と小指を挟み負傷。				
事故原因等	ボーリング助手が結合部の締め直しが完了した時点で、相互の声掛け確認により、ボーリング機長がハンマー昇降作業を実施したが、助手が結合部の締め直しが不十分であることに気づき、アンビルに指をかけてしまったことで負傷事故が起こった。				
改善策等	・アンビルとロッドの締め直し作業時には、ハンマー昇降用のコーンプリーのギアスイッチを切ることで、断続的作業にし、アンビル部への注視を徹底する。 ・ロッド等から1m離れた位置に後退ラインおよび接近禁止柵を設け、助手が後退ラインおよび接近禁止柵より十分に離れたことを確保した時点でギアスイッチを始動する。 ・アンビルの上部にロッドを接続し、接続したロッド部に締め直し作業を行うことで、アンビルとハンマー間に指がかかることを防止する。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・人手作業と機械作業を併用する場合における、機械スイッチの確実な切断 ・作業員との十分な離隔を確保した上での機械の始動 ・挟まれ事故を防止するための工具等の配置方法の改善				

事故状況図



指がアンビル下部に残っている

改善策

【「逆打ち作業」実施時の対策】



(締め直し作業は上部より行う)



② 接近禁止柵の設置



Figure 1 is a cross-sectional diagram of a road construction site. It shows a road with a 0.3% slope. A yellow excavator is positioned on the right side of the road. A red box highlights the '事故発生箇所' (Accident location) where a worker is being struck by the excavator. Other labels include 'No. 260', 'No. 261', 'No. 262', and 'No. 263' along the top, and '被災者' (Victim) and '作業内容' (Work content) in a red box.



横移動中のバックホウのキャタピラーが、背を向けて測量していた被災者の腰部の釘袋に接触し、釘袋が巻き込まれ、腹部を圧迫し負傷した。

[illegible]

※重機の作業半径内立入禁止のバリケードの単管の色は見やすいように実際とは異なります

・作業者検知システムの導入

作業者接近検知システム

マグネットで簡単装着！

NETIS登録商品 OS-150004-VE



**1 360° (全方位)、
最大 12m 検知可能**

検知距離は 3m~8m/7m~32m で (検知種の
替替ダイヤルで 1m 単位で設定可能。重機の
月面を常に監視し建設機械周辺に危険の作業者

3 壁や重要な物品等、
周辺構造物への接近も検知

1にタグを壁や重要な物品に取り付け
（例：壁面、天井、床面、柱、梁、配管等）

2 建設機械と建設機械の
接近も検知

作業車だけでなく建設機械と
建設機械の接近もお知らせできます！

4 壁に隠れている
作業者も検知

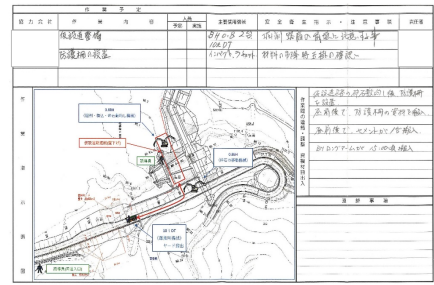
磁界と電流を使用しているため、
壁に隠れている作業者でも検知可能！



機密性2情報					
事故種類	公衆災害	発生日時	令和7年12月11日 8時50分		事故当事者
事故区分	切断	年齢性別	63歳 男性	職種	元請け
被災程度(全治)	架空線切断(電力線)				
事故概要	・土砂仮置き場にてダンプトラックから碎石を降ろす際に荷台を上げ碎石を降ろしたものの完全に降ろしきれなかったため、荷台を上昇させたままダンプトラックを1〜2m前進。その後、完全に荷下ろしを完了させ荷台を下ろしたところ荷台と架空線が接触し牧場への引き込み線(100Vの電力線)を切断。				
事故原因等	・新たに計画した資材置き場での作業について、安全教育等は実施され、施工計画書も作成していたものの当日の指示が口答指示であり安全対策について十分な周知・徹底ができていなかった。 ・当該箇所に荷下ろし車両の誘導員として1名配置していたものの、想定外の状況となり誘導員の勝手な判断で計画とは異なる荷下ろし場所へ変更し車両を誘導した。その後、別車両の誘導のため移動した。 (事故発生時には碎石を積載したダンプトラック①とセメント固化材運搬車両②が同時に現地に到着。先着した、ダンプトラック①は架空線手前で荷下ろし作業が必要ため、後続の運搬車両②に待ち時間が生じることから、待ち時間を回避しようと架空線を1mほど通過した場所(よりヤードの奥側)に計画とは異なる誘導を行った。なお、誘導員はダンプトラック①がダンプアップした際に架空線に接触しないことは確認していたが、運搬車両②の誘導に移動したため、その後の荷下ろし作業は確認していない。) ・ダンプトラック①の運転手は、誘導された場所で荷下ろしを行っていたが、1度荷台を上げただけでは全てを下ろすことができず、荷台を上げたまま1〜2m程度前進し完全に荷下ろしを行った後、荷台を下ろした際に架空線と接触し切断した。				
改善策等	・作業指示の伝え方として、図面・略図・手順書等を活用し、指示を明確にする。 ・朝礼時に注意事項の確認を徹底し、決められたルールの遵守させるよう徹底する。また、休憩・昼食後、作業再開時に当日の危険のポイントを再度確認し、作業を開始する。さらに、誘導員を専任配置する。 ・架空線に保護カバーを設置する。なお、防護カバーが設置されるまでは、立入禁止措置(単管柵固定)を行う。また、ダンプトラック運転手が目視確認できる位置に「上空架空線注意」のぼり旗を設置する。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・事故原因及び改善策について他の工事へ周知し再発防止を図る。				

事故状況図

改善策



図面等を活用し注意事項の確認



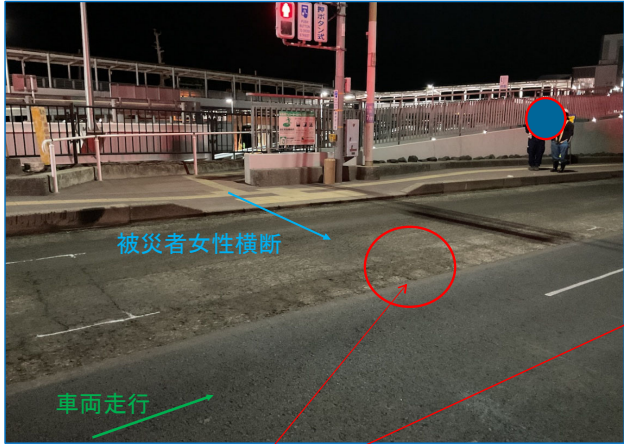
作業再開時の再確認



防護カバーの設置
「架空線注意」のぼり旗設置

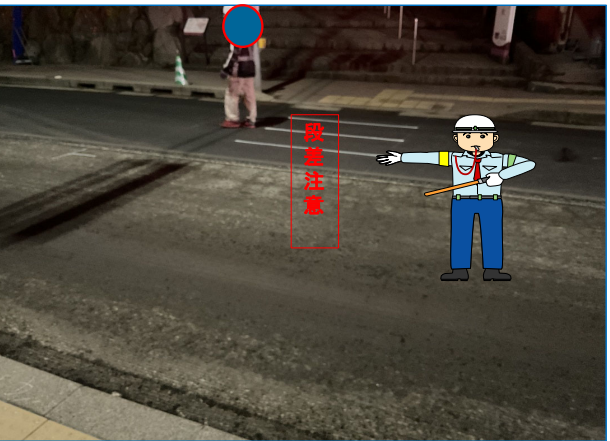
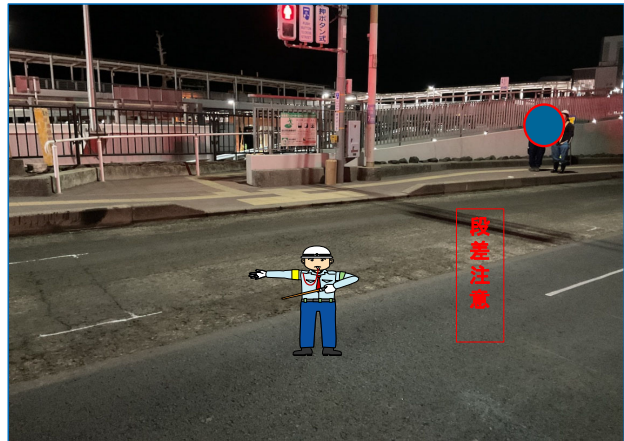
機密性2情報						
事故種類	公衆災害	発生日時	令和7年12月19日（金） 20:50		事故当事者	一般の方
事故区分	その他	年齢性別	49歳 女性	職種	一般の方	
被災程度（全治）	右こめかみを3針縫う怪我（レントゲン、CT検査異常なし）					
事故概要	・工事区間内の横断歩道を49歳女性が利用中に路面切削の段差（t=5cm）につまずき頭部を負傷。 （右こめかみを3針縫う怪我） ・事故当時、歩行者は、横断歩道の押しボタン式信号機を利用せず、赤信号で横断しているところ、反対車線の車両が接近してきたため、慌てて横断しようとして、段差に躓き転倒。 近くにいた作業員が反対車線の車両を停車させ、二次災害は発生しなかった。					
事故原因等	・横断歩道部の歩行者誘導にあたっては、横断歩道部と店舗出入口の誘導を行うため交通誘導員を1名配置 おり、歩行者が横断歩道の押しボタン式信号を利用し、青信号になった場合に歩行者の誘導を行う計画として いたが、事故当時、被災者は、赤信号で横断したことから交通誘導員の対応が遅れ、路面切削後の段差に躓 き転倒した。 ・被災者が赤信号で横断したこと、横断歩道部において路面切削後の段差に「段差注意」の明示がなかった ことが原因と考えられる。					
改善策等	・横断歩道部は、路面切削による段差を看板等で明示する。 ・押しボタン式信号を消灯し、横断歩道部に常時、交通誘導員を配置し注意を促しながら誘導する。 ・夜間作業でバルーン灯を使用しており、配置位置によっては段差が影になるため配置位置を確認する。					
類似工事（他工事）へ活用で きる対策等	・横断歩道部は、路面切削による段差を看板等で明示する。 ・横断歩道部に常時、交通誘導員を配置し注意を促しながら誘導する。					

事故状況図



・被災者が横断歩道を小走りではしり、段差につまずいて転倒し、こめかみを3針縫うけがをする。

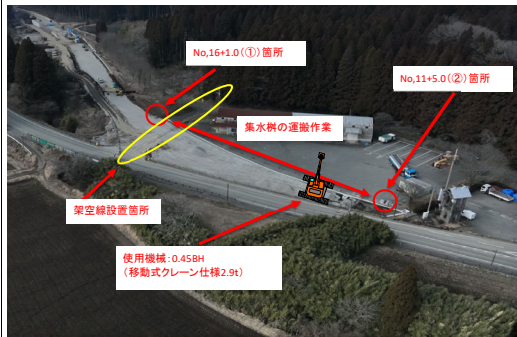
改善策



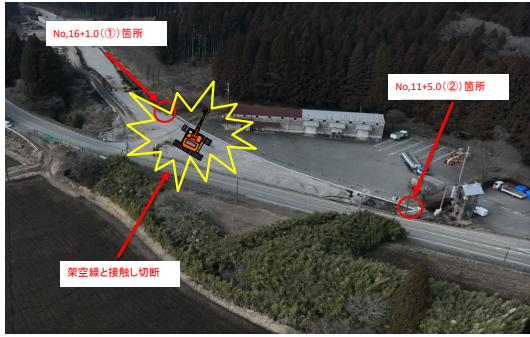
・信号機は点灯せず、誘導員を配置して通行される方を常に誘導する。
・段差箇所には、段差注意看板を設置する。
・横断歩道を切削工事中は、横断歩道を通行できないので、工事車両がいない所まで誘導して、横断してもらう。

機密性2情報					
事故種類	公衆災害	発生日時	令和8年2月25日 9時30分	事故当事者	1次下請け
事故区分	切断	年齢性別	44歳 男性	職種	BHオペレータ
被災程度(全治)	NTTケーブル3本切断(未使用線であったため一般への影響なし)、人的被害なし				
事故概要	集水桝を設置するために、仮置きしていた箇所と異なる施工箇所へバックホウで桝を吊り上げたまま移動し、バックホウのアームが架空線に接触し、NTTケーブル線3本を切断した。				
事故原因等	①集水桝を施工箇所へ2tダンプで運搬予定であったが、2tダンプの到着が遅れたため、バックホウのオペレータの自己判断で作業指示と異なる吊り移動運搬を実施した。 ②安全仮設備が不十分な状態であった。(高さ制限装置未設置)				
改善策等	①作業手順書に「吊荷走行の禁止」及び「予定外作業については、職長・元請に必ず確認」を明記し、当日の作業内容を作業員全員に配布し、携帯させる。又、重機等のキャビンに「予定外作業時は、職長・元請への連絡」の張り紙を設置する。 ②架空線前後に高さ制限のゲート及びのぼり旗を設置する(単管・トラロープ・三角旗)。 ③施工時は常時架空線の下に合図者を配置する。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	安全協議会等において、事故原因及び改善策を周知。				

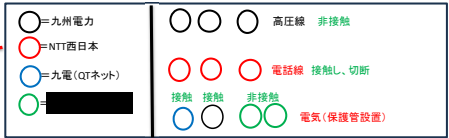
事故状況図



事故状況【1】
②箇所から①箇所へ2tダンプで運搬予定であったが、バックホウのオペレータの自己判断で吊り移動について運搬を実施。



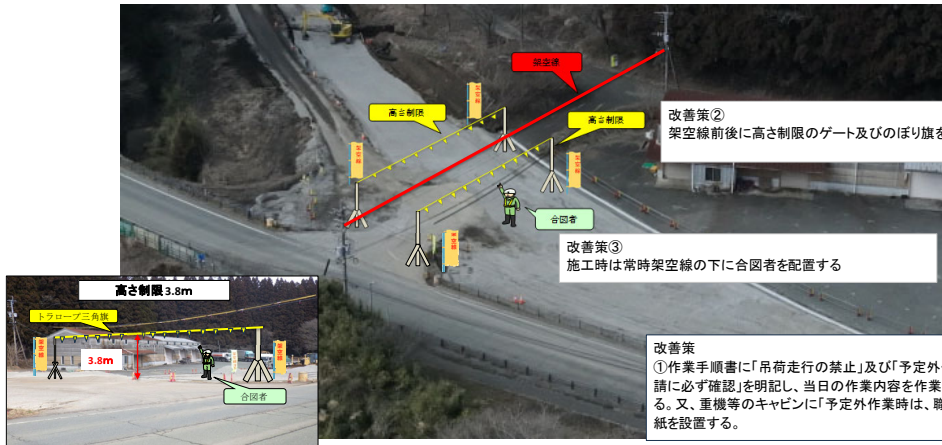
事故状況【2】
予定外の施工であり、見張員がいない中、①箇所への移動中、上空への注意が疎かとなり、アームを架空線に接触させ、切断。



九州電力 5本
NTT 3本
電線 2本

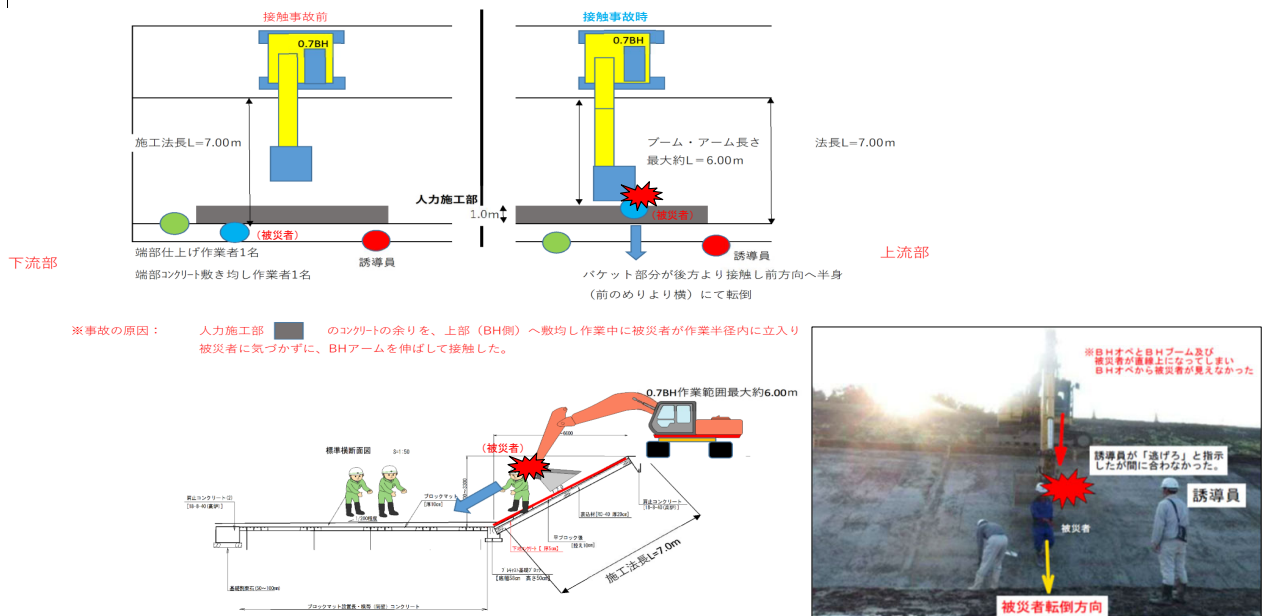
九電・NTTの計5本に接触
電話線3本を切断

改善策



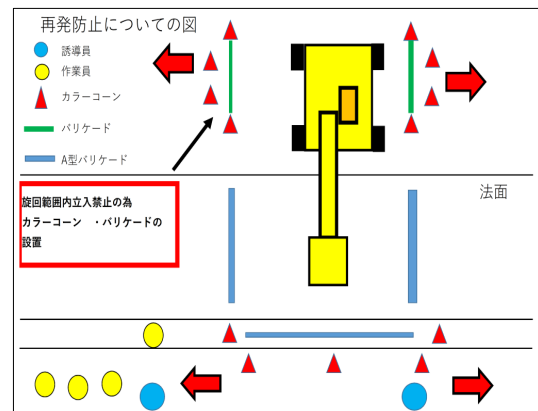
機密性2情報					
事故種類	労働災害	発生日時	令和8年2月25日 14時15分	事故当事者	2次下請け
事故区分	建設機械	年齢性別	52歳 男性	職種	普通土工
被災程度(全治)	頸椎椎体骨折、鼻骨骨折(全治1ヶ月)				
事故概要	法覆護岸工における張りブロック設置前の下地処理作業としてコンクリートの均し作業をしていた際に、作業員のヘルメット後頭部とBHバケット部分が接触し前のめりに転倒した。				
事故原因等	①施工計画書において、接触事故の防止対策として立入禁止処置を実施するとしていたが、設置していなかった。 ②誘導員がBH操作人へ停止合図を出さなかった。 ③BH作業範囲と作業員作業範囲は分けていたが、コンクリート均し作業中に上下作業となり、作業員が作業半径内に侵入していた。 ④更にBHブームと作業員が重なったことで、BH操作人からの死角となり作業員が視認できなくなった。				
改善策等	①BH(重機)作業半径内について完全な立入禁止処置の実施 ②重機の作業は必ず誘導員の指示のもと行う(手旗・笛による合図の徹底) ③重機・作業員の上下作業禁止。 ④KYにて当日の誘導員の専任と、安全ベスト着用による誘導員の明確化を行い、他作業員へ周知を徹底する。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	事故事例を作成し、類似事故が発生しないように周知徹底する。				

事故状況図



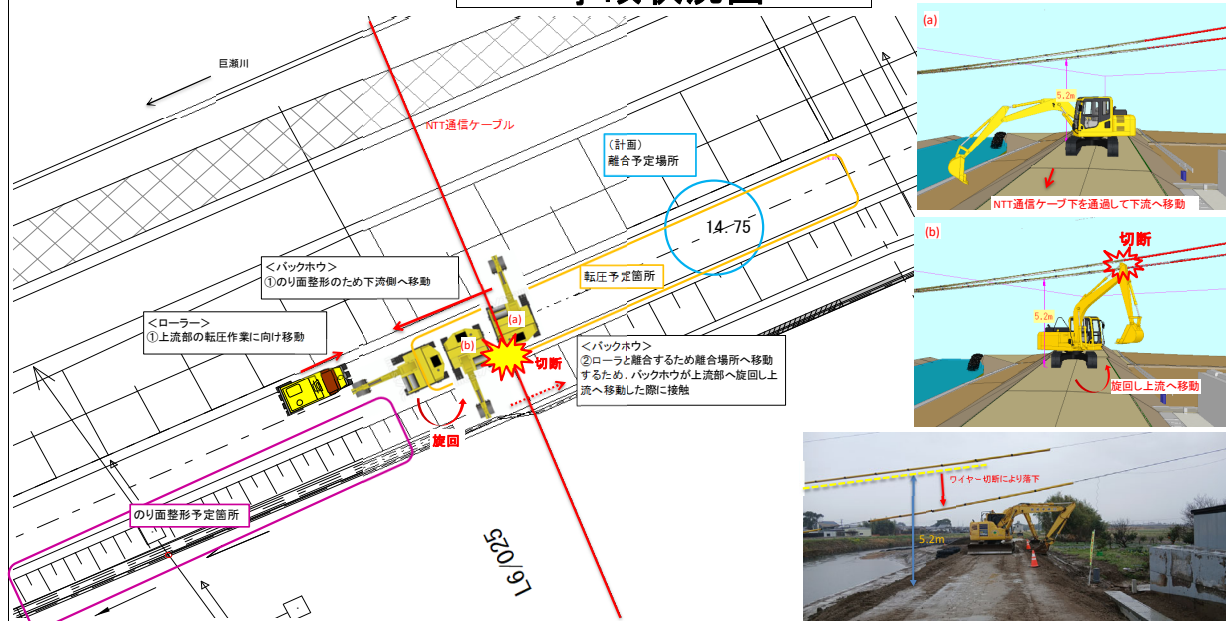
改善策

- ①BH(重機)作業半径内について完全な立入禁止処置の実施
- ②重機の作業は必ず誘導員の指示のもと行う。
(手旗・笛による合図の徹底)
- ③重機・作業員の上下作業禁止。
- ④KYにて当日の誘導員の専任と、安全ベスト着用による誘導員の明確化を行い、他作業員へ周知を徹底する。



事故種類	公衆災害	発生日時	令和8年3月6日 9時27分	事故当事者	一次下請け
事故区分	切断	年齢性別	50歳 男性	職種	オペレーター
被災程度(全治)	NTT通信ケーブルのメッセンジャーワイヤーの切断				
事故概要	堤防の盛土部を転圧するため、振動ローラーがバックホウ(0.45m ³)と離合する必要があった。離合のためバックホウが上流側へ移動した際、ブームを立てたまま旋回・走行したことでNTT通信ケーブル(架空線)のメッセンジャーワイヤーを切断したものである。(NTT通信ケーブル自体には損傷はなかった)				
事故原因等	NTT通信ケーブルがあることを認識し、事前に「架空線注意」ののぼり旗やカラーコンによる明示、朝礼やKY活動による確認を行っていたが、振動ローラーが不意に近づいたことでバックホウのオペレーターの注意力が散漫となり、NTT通信ケーブルの存在を忘れてしまった				
改善策等	①NTT通信ケーブルの前後5m離れた箇所に重機オペレーターの視覚に入る高さに三角巾・リボンテープを設置する。 ②同前後5m区間内では重機旋回を禁止するとともに、区間内作業等がない場合はバリケードにて区間を封鎖する。 ③架空線注意看板を設置する。 ④NTT通信ケーブル下の往来及び近接作業の際は、見張り員を設置し旗や笛で注意喚起を行う。 ⑤架空線事故再発防止安全訓練を実施する。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	事務所発注全工事において架空線に対する安全対策の再点検を実施する。				

事故状況図



改善策

